

嬉望

第3号

令和4年3月24日

兵庫教育大学

教職大学院

学校経営コース

編集部

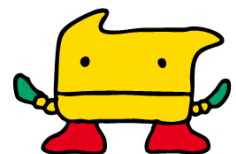
(国本 満石)

「嬉望」は、本学加東キ

ャンパスが嬉野台地区

にあることと、「希望」と

をかけた造語です。



令和三年度修了

「はなむけの言葉」
学校経営コースの先生方より

学校経営コース長 當山 清実 教授

今年度は、昼間部十名が教職大学院での学びを終え、巣立っていくこととなりました。また、これまで本コースで指導をいただいた黒岩寛先生が離任となりました。

今号では、そんな修了生の思い、学究世界に導いてくださった大学の先生方からの、はなむけの言葉をまとめるとともに、二月の改善プラン発表会について特集しています。

浅野 良一 特任教授

教育界を先導するリーダーとしての役割と責任を自覚し、期待される職責を果たしていくことができるよう祈念申し上げます。

川上 泰彦 教授

修了おめでとうございます。振り返ると、コロナ禍に振り回された二年間でした。思った通りの修学がままならない部分もありましたが、学びのスタイル、ひいては学校経営のスタイルを大きく変化させる(きつかけの)二年間を、大学院から幅広く概観できたことの意義は、この後どんな高まると確信しています。もちろん、まだまだ変化は続きますが、一歩引いた比較・考察ができるかどうかは、変化への対応と新しい価値の創出に大きな違いを生みます。すごいタイミングで修学できたということに胸を張って、次のステージでご活躍ください。

二人生の皆さん。修了おめでとうございます。皆さんの大学院生活は、「コロナ」と併走した二年間でした。ただ私自身、皆さんと接する機会が薄かった印象はありません。それは、対面時でのやりとりが充実していたのででしょうか。一人ひとりの学習や研究の様子がよくわかったようにも思えます。太陽コロナは、普段は光球や彩層からの光が強い、ため見ることができませんが、皆既日食の際には肉眼で見ることができます。皆さんも、これからの変化の時代に光を放つ人材としてご活躍ください。

もし何かご縁がありましたら、また伴走する機会がいただければと思います。

黒岩 寛 准教授

修了される院生の皆さんは、入学と同時に大学が休校となり、不安の多い大学院生活のスタートだったことと思います。授業が始まってからもオンラインで、初めて対面でお会いした時は半年が過ぎていました。そんな厳しい環境の中にあっても学びを深め、研究を進めていった皆さんの姿には素晴らしいものがありました。その成果としての改善プランは、過去の先輩方に引けを取らない立派な研究成果でした。皆さんには、この逆境下だからこそ得られた知見も多くあると思います。

本学での学びを活かして、それぞれの教育現場でリーダーとして活躍されて行くことをお祈りしています。修了おめでとうございます。

安藤 福光 准教授

皆様、ご修了おめでとうございいます。

新型コロナウイルスの流行で、大学院生活の最初から不安が多かったと思います。しかし、初夏のころだったと思えますが(失念)、皆さんと「初対面」したときに、ある種の「力強さ」を感じました。先行きの見えない不透明な状況

教育を取り巻く環境の変化に的確に対応していくためにも、今後も学び続ける姿勢を持ち、より高度な実践に努めてください。



の中で、がむしやらに取り組むことで、「生きる力」を身につけられたのだと思います。

私にとって、皆様とインフォーマルなお付き合いをここまでできなかったところが、何とも悔やまれるところです。

今後ともフォーマルはもとよりインフォーマルでも末永くお付き合いできれば幸いです。皆様のご活躍を祈念しております。

神内 聡 准教授

修了生の皆様、この度はご修了誠におめでとうございます。

二年前に兵庫教育大学に赴任した私にとっては、同時期に入学された修了生の皆様とまさに同じ歩調で歩んできた二年間でした。私にとって初めての大学院の講義でもある「教育法規」も、修了生の皆様と一緒に作り上げた内容で、活発な議論でいつも大変楽しく学ばせていただきました。コロナの中での学びは本当に苦労されたと思いますが、その経験がきっと現場で子どもたちの気持ちをより一層理解できる下地になるのではないかと思います。

私も修了生の方から学んだことを研究と実務の双方で活

かしたいと思えます。どうもありがとうございます。

前田 麦穂 特別研究員

大学院修了おめでとうございます。二年目の皆さんとは同じ二年間を学校経営コースで一緒にさせて頂き、勝手に「同期」のように感じておりました。

コロナ禍での大学院生活スタートという苦境にも関わらず、着実に課題研究に取り組み、改善プランを完成させていく皆さんの粘り強い姿勢から多くを学ばせて頂きました。感染症を含め、予測できない急激な社会変化が起こる現代において、学校組織のリーダーに不可欠な経験と修養を皆さんはこの二年間で積まれたのだと思います。今後益々のご活用を心よりお祈り申し上げます。

修了にあたって

二年生より

石橋 千恵

(兵庫県立阪神昆陽高等学校)

コロナ禍で始まった大学院生活は、オンラインが当たり前の生活様式に変わりました。場所を選ばないオンラインは学びの場を広げ、自ら求めれば扉は様々に用意されていることを知りました。

また、この二年間は様々な人やものにエンカウンターし、その心に触れ、高い視座、広い視野、鋭い視点を持つことの大切さを学びました。

大学院での学びと出会いを携えて、教育の現場で持てる力を発揮したいと思えます。出会った全ての方々に心より感謝申し上げます。

大牧 愛由美

(兵庫県立北はりま特別支援学校)

コロナ禍の大学院生活。「学校」とは何か、また、人との繋がり大切さ、温かさを再認識する二年間でした。学校経営の講義や多彩なフィールドワークによって視野を広げ、物事を多面的に捉えることを学びました。「指し手感覚」は、

迷った時に私の背中を押してくれる言葉でした。これらの学びや経験を活かし、今後も研鑽を積んでいきます。

先生方、コースの皆様、お世話になった方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

坂本 多津子

(兵庫県立三田西陵高等学校)

二年間の学びを通して、学校を俯瞰的に見つめ、改善に向かうことの難しさを理解したとともに、学校経営が創造的なものであることを感じる事ができました。培った学校改善に向かう研究の姿勢を自身の財産とし、微力ながら、兵庫県教育の充実・発展に貢献していくことができそうです。今後研鑽を積み重ねていく所存です。

お世話になりました学校経営コースの先生方、院生の皆様、現任校の皆様にご心よりお礼申し上げます。

佐野 崇幸

(山口県長門市立深川中学校)

学びの奥深さにもがき、苦しむ毎日でしたが、管理職としての資質・能力を高めるためには必要不可欠な二年間でした。コロナ禍という大きな

制限があったからこそ見えたもの、感じたもの、そして得たものが多くありました。学びの続きはこれから出会う子どもたち、先生方と一緒に紡いでいきます。

また、今後も一つひとつの教育課題に対して誠実に向き合えるよう学び続けていこうと思えます。

学校経営コースの先生方、院生の皆様、本当にお世話になりました。

2月6日 改善プラン発表会にて



高橋 義尚

(兵庫県立宝塚高等学校)

学校経営について専門的な知見を広げ、新たな視点で学びを深めることができた二年間でした。大学院での様々な学びを通して刺激を受け、研究に取り組んだ経験は、これからの教職生活に活かされるものと確信しています。今後、兵庫県教育の充実・発展のために尽力していきたいと思えます。

ご指導いただいた先生方をはじめ、大学院生の皆様、お世話になった全ての方々により感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

田中 暁宏

(鳥取県立鳥取中央育英高等学校)

大学院での学びはとても刺激的で、これまでの実践を振り返る貴重な時間となりました。日々視野の広がりを感じることができ、学校経営やこれからの教育について深く、俯瞰的に考えることができたと思います。

コロナ禍の学校現場に戻ることにありますが、ここでの学びや経験をいかして尽力していきたいと思えます。この二年間ご指導いただいた先生方、ともに研鑽したコ

ースの皆様には心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

徳永 志保

(山口県立光高等学校)

二年間の大学院での学びは、自身のキャリアプランを大きく変えるものとなりました。組織の一員としてではなく、組織を束ねるリーダーとしての使命感を持って職務を遂行していかなくはならないとの意識を強くすることができました。

今後は、これまでとは違う角度から教育を眺め、生徒の成長を見とつていかなければなりません。学校経営コースでの切磋琢磨の日々を糧に、励んでいこうと思えます。ありがとうございます。

藤本 寿雄

(兵庫県立東はりま特別支援学校)

新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中、ICT機器を活用し、いち早く授業を開始していただいた大学の先生方に対して感謝をしております。

大学での学びでは「学校は誰のものか」など、多くの問いに対して考える機会を得ることができました。教育の動

向に對しての視野を拡げながら、自分と向き合い、友との語り合いを通して研究を進めることができました。

この貴重な経験を、これからの学校に活かしていきます。本当にありがとうございます。

水野直樹

(山口県岩国市立麻里布小学校)

大学院での二年間は、教職経験の中で出会ってきた職員や子ども達の顔を思い浮かべたり、出来事を振り返ったりしながら、これまでを振り返る時間となりました。

また、多くの方の考えや思いに触れることで、自身の教育観ばかりか、生き方そのものを見つめ直す貴重な期間ともなりました。これも単に先生方をはじめ院生の皆様のご支援の賜物と感謝いたします。これからは教育の充実・発展のために微力ながら貢献していきたいと思えます。

山本 泰博

(兵庫教育大学附属中学校)

勤務しながらの学校経営コースでの学びは、部活や生徒指導が中心で生きてきた自分にとってはとても新鮮で、最高の時間となりました。これ

からの教育や学校のあり方について、見方が変われば世界が変わるきっかけとなり、行動も習慣も、そして人生も変えていただける貴重な財産となりました。今後の自分の人生にも期待しながら、研鑽を続けていき、楽しんでいきます。

先生方をはじめ、同期のコースの皆様には常にご配慮いただきありがとうございます。

心よりお祝い申しあげます。
今後のご活躍を祈念しております

黒岩 寛 准教授
前田 麦穂 特別研究員の
離任にあたって

「離任の挨拶」

黒岩 寛 准教授

兵庫教育大学と兵庫県教育委員会との人事交流で、令和二年四月に准教授として着任して、大学教員として自分の使命は何か、大学・兵庫県の双方に貢献できることは何かを考えながらの二年間でした。大学教員として学生・院生を指導する以上に、学校経営コースの先生方・院生の皆さんから多くのことを学ばせていただけたことは大きな宝となつていきます。兵庫教育大学を離れても、ここでの素晴らしい出会いの“縁”を大切にしていきたいと思えます。皆さまに心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。



「離任の挨拶」 前田 麦穂 特別研究員

今年度で日本学術振興会特別研究員を辞退し、新年度から国学院大学人間開発学部初等教育学科に助教として着任することになりました。

昨今、若手研究者の就職は非常に厳しい状況ですが、面接では学校経営コースで現職教員の皆さんとともに学ばせて頂いたことが評価されたのではないかと（勝手に）考えております。

今後は小学校教員養成に携わる者として、兵庫教育大での経験を糧に精進して参りたいと思います。短い間でしたが、学校経営コースの先生方、P1・P2の皆さん、本当にありがとうございました。

学校経営・教育行政 改善プラン発表会

令和三年二月五日・六日の二日間、兵庫教育大学神戸ハイパーランドキャンパスにおいて、改善プラン発表会がハイフレックス方式で開催されました。P2にとっては二年間の学びの集大成となる発表会でした。メンターである各所

属の学校現場の管理職や派遣元の教育委員会の方々の参加がありました。指導助言をしていただけました。

また、六日の発表に先立ち、兵庫県学校経営コース同窓会総会も行われました。令和三年度同窓会役員の紹介や在学兵庫県院生の紹介などがありました。

はじめに、當山学校経営コース長から改善プランの「五つの観点」についての説明があり、P2から学校経営コースにおける二年間の学修やフィールドワーク、インターンシップ、先進校視察の成果をふまえてまとめた改善プランが発表されました。修了生も交えて、オンラインで活発な質疑応答がなされました。

P1にとっては、学校経営もしくは教育行政の実践を改善するために非常に参考になるもので、来年度に向け、具体的な計画作成を事例から学ぶ機会となりました。

P2にとっては、二年間の学修成果を発表する大切な場となりました。様々な指導助言を今後活かして頑張ってください。

年度末のお忙しい中、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



改善プラン発表会の様子

【編集後記】

「コロナで始まり、コロナで終わった」

学校経営コース二年生は口を揃えて言われました。しかし、改善プラン発表会で伝わった現任地への学修成果還元への固い決意は本当に素晴らしいもので、一年生は見習うとともに、自分たちの研究テーマを再度見直すきっかけとなり、襟を正すことができました。

来年度も二年生が残してくださった学修に向かう熱い思いと研究への軌跡を追い、一年生一同邁進していく決意です。また、本娯望においても、大学院における研究の様子を各所属先へ伝えられるよう発行に取り組んでまいります。
(一年生 国本・満石)

